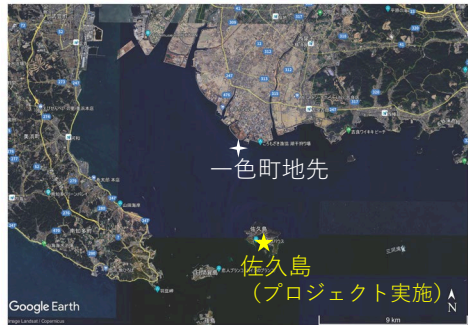


# ベースライン

根拠 1.  
プロジェクト開始（2002年）前のベースライン根拠として、阿知波，2009による三河湾におけるアマモ場面積の変動に関する論文において、1941年以前は三河湾で101.4平方キロメートルが確認されていたアマモ場が2001年には2.5平方キロメートルと約97.5%が消失していることが示されている。また2000～2001年の三河湾に残る比較的大きなアマモ場は、一色町地先と田原市福江湾付近のみとされ、佐久島はあげられていない。



根拠2.  
プロジェクト開始前の航空写真の取得はできなかったが、プロジェクト開始より10年に該当する航空写真（下図）において、2023年度、2024年度と同等のアマモは確認できず、大きなアマモ場がないことが推察される。  
また、阿知波，2009による論文において比較的大きなアマモ場として残るとされていた一色町地先について、2014年の航空写真（右上図）において、アマモと推定される画像が確認できるが、2025年の航空写真（右下図）では確認できない。当該地域は保全活動は実施されておらず、採貝漁業（潮干狩り、腰マンガ）や小型底引き網漁業（水流噴射式貝けた網）が行われており、アマモの消失が推定される。



2014年3月17日 一色町地先 航空写真（GoogleEarthより）

根拠 3.  
プロジェクトを開始した佐久島中学校（当時）の生徒によるあいちの水産平成15年新年号掲載文によると、当時「海そう」が以前に比べて減っていること、漁業者へのヒアリングでかつてはあたり一面アマモだらけだったとの記述がある。

根拠 1、2、3 よりプロジェクト開始当時アマモは減少しており、まとまったアマモ場等はなく、現在佐久島でアマモ場が維持・回復しているのはプロジェクトの活動によるものと推察されることから、ベースライン 0 とする。



2012年5月11日  
（プロジェクト開始より10年）  
航空写真（GoogleEarthより）



2025年4月16日 一色町地先 航空写真（GoogleEarthより）